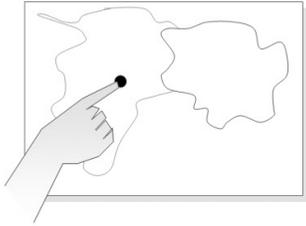


1

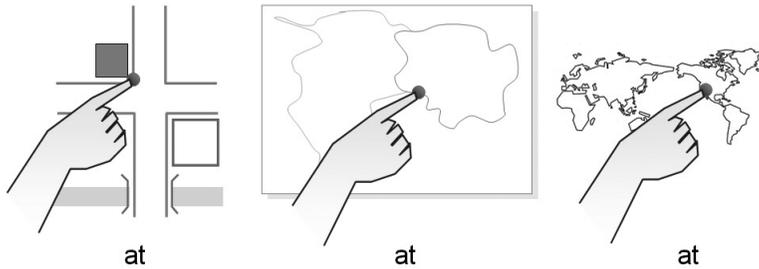
at 全体を見渡して「今、ここ!」と指さすイメージ

イメージをつかもう



at は例えば、地図全体を見て、指さすイメージです。全体像を把握して「今、ここ!」とフォーカスするイメージです。ピンポイントさを感じさせます。

「点」「地点」などをピンポイントにさす場合が多いですが、実はその点の大きさは変幻自在に変わります。テーブルの角のような小さな「ところ」から駅とか空港など大きな「ところ」まで適用されることがあります。



また形の無い抽象的なものを表す場合には、面積や境界を感じさせる **in** ではなく **at** が使われることが多いです。



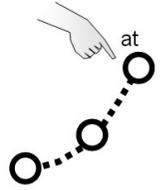
解説と例文でつかもう

指さし感のイメージで使われている例です。

① I'm waiting **at** Tokyo Station.

「私は東京駅で待っている。」

心の中の地図上で、東京駅という「ところ」を指さしている感じです。



② He was sitting **at** his desk.

「彼は席についていた。」

いすの上に座っているわけですが、「机のところ」という指さし感です。



そこから広がって…

「指さし」をするように「視線」や「意識」が向けられる先のことも意味します。この「矢印」で感じられるようなものの先や指の先に意識があるのが **at** です。

③ I'm looking **at** her.

「私は彼女を見ている。」

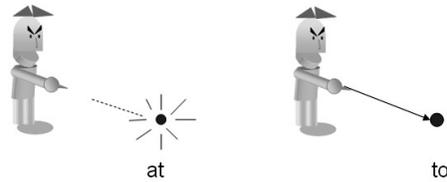
④ He was aiming **at** the bull's eye.

「彼は（標的の）中心を狙っていた。」

これらも全て矢印の先を意識しているイメージです。

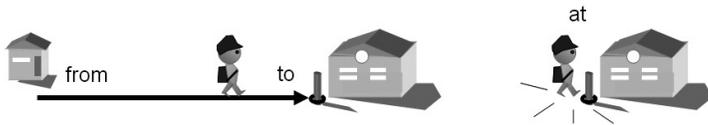
stare at (じつと見る) や **glare at** (じつと睨む) も視線の矢印の先ですね。

at はあくまでも指先、視線や意識の注がれる点のイメージで「その対象」のことだけを感じさせますが、一方で例えば **to** は（到達までの）「経路」を感じさせます (**to** の項参照)。



go to the school from home 「家から学校に行く」

家を出てから学校に着くまでの道のりが伝わります。到達の一瞬のことだけでなく、プロセス（**from** から **to** の幅、経路）を含んでいるイメージ。対して **He arrived at school this morning.** の場合の **at** は経路を感じさせず「その場所、対象」のことだけに焦点があり、「彼は今朝学校に到着した。」の意味になります。



そのため **at** は③④のように「狙い系」の動詞と相性が良いです。次の例も「狙いの先」を表しています。

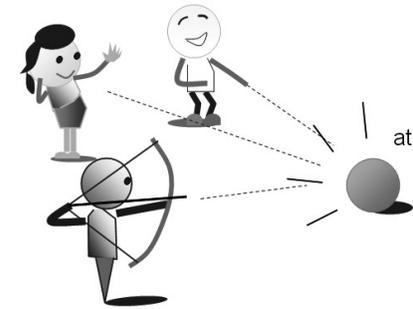
⑤ **Those reindeers were laughing at Rudolf, the red-nosed reindeer.**

「あのトナカイたちは、赤鼻のトナカイのルドルフを笑っていた。」

⑥ **The teacher pointed at the graph on the whiteboard.**

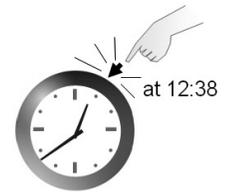
「その先生はホワイトボード上のグラフを指さした。」

「狙う先」を表す言い方はほかには **kick at** 「～に向かって蹴る」、**throw at** 「～に向かって投げる」、**shoot at** 「～に向かって撃つ」、**catch at** 「～に掴みかかる」、**jump at** 「～に飛びつく」、**aim at** 「～を狙う」、**look at** 「～を見る」などがあります。



「時間」を表現する時も、地図で特定の場所を指さすイメージで、特定の時間（時刻）を表す時は、時計の文字盤を指さすような感覚での点を表す **at** を使います。

⑦ **at 7 o'clock** 「7時」、**at noon** 「正午」、**at midnight** 「零時」



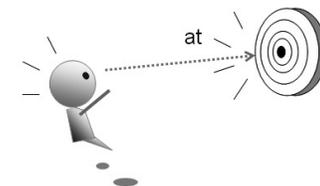
例文でもっと吸収

Sam has been very mad at Lucy.

「サムはルーシーに対して非常に腹を立てていた。」

怒りの矛先を指さしているイメージです。

be surprised at 「～に驚く」、**be amazed at** 「～に仰天する、～に驚く」、**disappointed at** 「～に失望する、～にがっかりする」のように感情の原因の対象にも使われます。



また、数値などを表す場合は「点」として **at** を使います。

値段 (例: **at that price** 「その値段で」)

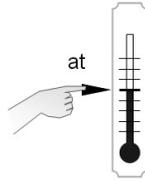
スピード (例: **at sixty miles** 「60 マイルで」)

温度や角度 (例: **at 90 degrees** 「90 度で」)

タイミング (例: **at some point** 「ある時点で」)

年齢 (例: **at your age** 「あなたの年齢で」)

他にも **at a rate of** ~ 「~の率で」、**at an altitude of** ~ 「~の高度で」、**at a distance** 「少し距離を置いて」などのように使います。



最上級などの端っこも「点」なので、**at** が使われます。

at the earliest

「早くても、できる限り早い機会に」

at (the) most 「せいぜい、多くて」

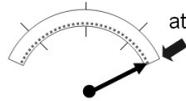
at (the) best 「よくても、せいぜい」

at (the) latest 「遅くと」

at the longest 「長くても、せいぜい」

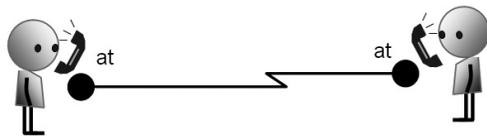
at (the) worst 「最悪の場合でも」

at (the) least 「少なくとも、せめて」



At our end, we don't see any issue with the project.

「こちらから見た限り、そのプロジェクトに関する問題は一切なさそうです。」



これは、「自分側」「あなた側」と指さしをしているイメージです。

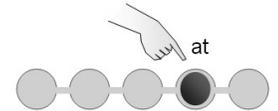
She is very good at tennis.

「彼女はテニスがとても上手だ。」

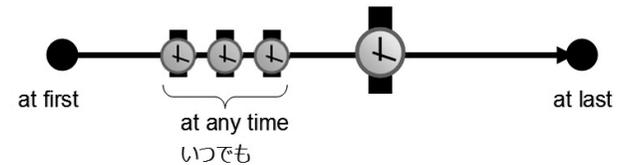
これは頭の中にテニスや野球というアクティビティの枠があって、その中で「彼女の得意なもの、そうでないものはコレ」として指さしている感じです。

切り替えスイッチの位置を選択している感覚と似ています。

The switch was positioned at 'AUTO'. 「そのスイッチは“自動（オート）”になっていた。」



この切り替えスイッチの位置を選択している感覚は、時間軸に対しても使えます。例えば、**at any moment** 「いつ何時、今すぐ、今にも」や **at any time** 「いつでも、どんな時にも」はいつでもスイッチを押せる状態のイメージです。



He keeps bugging me at all hours.

「彼は常に、私をイライラさせる。」

日本語で「24 時間」というと「午前 12 時～午後 12 時まで」とか「何時～何時まで」というように、時計の文字盤をグルッと一周するイメージが浮かびます。

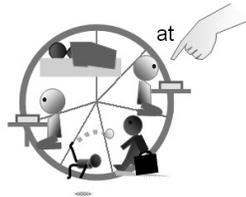
英語には複数形があるので、その力を借りて **at all hours** という言い方をします。24本の矢を放ち、その24本の矢全てが1日の24時間全部に当たったイメージです



We don't watch television **at** dinner.

「私たちは夕食時にテレビを見ない。」

「**dinner** タイム」というイメージ。物理的な「時間」というより、出来事や活動としての「そのとき」または「その場」という感じを指さす感じですよ。



at home 「家に、在宅して」 は家庭内の「場」の感じが強いですね。状況を表す場合には **at war** 「戦争中」、**at peace** 「平和な時、平和に」。このように、**at** は冠詞がつかない空間や形のない抽象的なものの前につくことができます。

at work 「工作中」、**at dinner** 「夕食時」や **at school** 「学校で」 も仕事や食事や学びの「場」としての意味を表します。

気持ちの状態や状況を表すこともあります。**at ease** 「気楽に」、**at rest** 「安らいで、安静時に」、**at a loss** 「困って、迷って」、それから **at his best** 「彼の最高の状態で」 は調子のよい状況です。

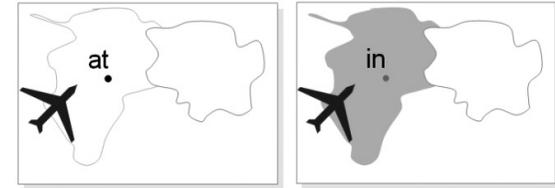
ほかの前置詞と比べてみよう

■ 場所を表す時の at と in の違い

(1) He arrived **at** Narita Airport. 「彼は成田空港に到着した。」

He arrived **in** Japan. 「彼は日本に到着した。」

arrive at というと、その「地点」「ところ」に到着したことを感じさせますが、**arrive in** というと、国や都市などその到着場所に面積を感じさせます。



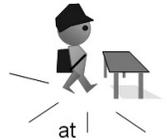
(2) He arrived **at** his desk **at** 3 o'clock.

「彼は3時に自分の机に着いた。」

(3) We are soon arriving **at** Tokyo Station.

「間もなく東京駅に到着します。」

これらは面積があるというよりも、「ところ」の感じですよ。



上の例は「到着」を表すものですが、その場所での「存在」やそこでの「行動」を表す場合はどうでしょう。例えば **at the station** は「駅」という物理的な空間をさすというより、漠然とした「駅」で、駅舎やプラットフォームなども含んだ「駅」という「ところ」です。**in the station** になると、駅舎のような「空間の中」をイメージさせます。

